

1990 年から続く一般の方を対象とした哲学入門講座です。
様々な角度から哲学・宗教・芸術・倫理などについて学びます。

2023年度 西田幾多郎

哲 学 講 座

回	日時	内容	講師
①	5月27日【土】 午後1時30分	『善の研究』成立と悲哀の体験	石川県西田幾多郎 記念哲学館館長 浅見 洋
②	6月24日【土】 午後1時30分	デカルトによる〈修練〉の哲学① －方法の精神を涵養する－	筑波大学准教授 津崎 良典
③	6月25日【日】 午前10時	デカルトによる〈修練〉の哲学② －高邁の精神を享受する－	
④	9月2日【土】 午後1時30分	務台理作と三木清－田舎者の面目	富山大学教授 宮島 光志
⑤	11月11日【土】 午後1時30分	西田を語るのか、西田に成るのか －ことばに写すのか、そのものを生きるのか－	金沢学院大学准教授 中村 直行
⑥	12月2日【土】 午後1時30分	人生をどう切り開くか ー自由ー	哲学者 山口 尚
⑦	12月3日【日】 午前10時	人生の壁とどう向きあうか ー運命ー	
⑧	2024 年 1月27日【土】 午後1時30分	漂泊の詩人画家・夢二	金沢湯涌夢二館館長 太田 昌子
⑨	3月2日【土】 午後1時30分	賭博の哲学	専修大学教授 大阪大学名誉教授 檜垣 立哉
⑩	3月3日【日】 午前10時	食べることの哲学	



1回からでも
気軽に参加
できる！

受講料 1回：500円、年間：2,000円

会 場 石川県西田幾多郎記念哲学館 哲学ホール

申込方法 〔各回受講〕申し込み不要です。直接会場へお越しください。
〔年間受講〕申し込みは随時受け付けております。

住所・氏名（フリガナ）・電話番号を、電話・FAX・E-mail などにて
下記までお申し込みください。

※各回受講から年間受講への変更はできませんので、ご注意ください。
※講座が中止になった場合、年間受講料の返金はいたしかねますのでご了承ください。
※個人情報、当館主催事業に関する目的以外には使用しません。

お問い合わせ

石 川 県
西田幾多郎記念哲学館
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市城内角 井 1
TEL(076)283-6600 FAX(076)283-6320
E-mail : nishida-museum@city.kahoku.lg.jp
<http://www.nishidatetsugakukan.org/>



浅見 洋 石川県西田幾多郎記念哲学館館長、石川県立看護大学名誉教授

① 5月27日【土】午後1時30分

『善の研究』成立と悲哀の体験

■講座内容紹介

昨年4月に私たちが再発見した『西田氏実在論及倫理学』は『善の研究』の「第二編 実在」、「第三編 善」に相当します。「実在論」は弟を亡くし、病気の娘幽子看病しながら書き上げられ、「倫理学」は娘が亡くなった悲しみを抱きながら講じられました。『善の研究』成立の過程とその背後にあった悲哀との関係を辿ります。

■専門分野 西田哲学、日本思想史

■主な著書・論文

『西田幾多郎とキリスト教の対話』（朝文社）

『西田幾多郎—生命と宗教に深まりゆく思索』（春風社）

津崎 良典 筑波大学准教授

② 6月24日【土】午後1時30分

デカルトによる〈修練〉の哲学① 一方法の精神を涵養する—

③ 6月25日【日】午前10時

デカルトによる〈修練〉の哲学② 一高邁の精神を享受する—

■講座内容紹介

私たちは、生まれつき〈真理〉を探究できるようにはなっていない。だとすれば、古典古代よりそう呼称されてきた〈精神の修練〉を以て、いまの自分とは別様の在り方を慕うことから始めねばならない—「我思う、ゆえに我あり」で有名な、17世紀フランスを代表する哲学者デカルトとともに、そのことの意味について考えます。

■専門分野 西洋近世哲学

■主な著書・論文

『デカルトの憂鬱』（扶桑社）

季刊誌『scripta』（紀伊國屋書店）にて連載中

宮島 光志 富山大学教授

④ 9月2日【土】午後1時30分

務台理作と三木清—田舎者の面目

■講座内容紹介

務台理作と三木清は西田哲学の批判的継承に生涯を賭けました。務台は堅実で地味、三木は果敢で華麗—その人柄と学風は対照的です。信州人の務台は大地、播州人の三木は収穫—その思索を導いた心象風景は親和的で、ともに自己の本源を親鸞に見いだしました。愛弟子ふたりの苦闘を辿りながら、恩師・西田幾多郎を追慕したいと思います。

■専門分野 応用倫理学、日独哲学交流史

■主な著書・論文

『新版 薬学生のための医療倫理』（共編、丸善出版）

『三木清研究資料集成』（共編、クレス出版）

中村 直行 金沢学院大学准教授

⑤ 11月11日【土】午後1時30分

西田を語るのか、西田に成るのか

—ことばに写すのか、そのものを生きるのか—

■講座内容紹介

「無」という言葉は無を表現できていない。では、その主張が言葉に成し得ない真実ならば、その無は何を指示しているのか。このように言葉へ言及することと言葉を使用することへこだわり、こだわりの極端な考え方を経て、考えない哲学に至る。それは西田流の矛盾を紙一重で避ける二重に反転する生き方でもある。

■専門分野 言語哲学、分析哲学、数学基礎論

■主な著書・論文

『表現の極端ニズム 一反転する二重構造を生きる—』（大学教育出版）

山口 尚 哲学者

⑥ 12月2日【土】午後1時30分

人生をどう切り開くか 一自由—

⑦ 12月3日【日】午前10時

人生の壁とどう向きあうか 一運命—

■講座内容紹介

この講座では〈自由〉をテーマとしてデカルト、ホッブズ、スピノザのそれぞれの考え方を見ていきます。目標は第一に近世哲学を代表する三人の立場を押さえること。第二にそこから現代哲学における自由論の対立軸を取り出すこと。第三にそれを自分の人生に応用すること。この「一石三鳥」を目指し、一緒に楽しく哲学してみませんか。

■専門分野 形而上学、心の哲学、宗教哲学、自由意志

■主な著書・論文

『幸福と人生の意味の哲学—なぜ私たちは生きていかなければならないのか』（トランスビュー）

太田 昌子 金沢湯涌夢二館館長

⑧ 2024年1月27日【土】午後1時30分

漂泊の詩人画家・夢二

■講座内容紹介

竹久夢二はその「夢二式美人画」で時代の寵児となり、処女画集では「絵の形式で詩を画い」たら認められたと述べています。夢二にとって絵は詩でもあったのです。妻・岸たまきの故郷・金沢の「詫び」を好み、街や人々の佇まいを多くの文や絵に残しています。独立不羈、漂泊の人生を過ごした夢二の芸術をその作品から考えます。

■専門分野 日本美術史

■主な著書・論文

『志度寺縁起絵』（執筆・編集、平凡社）

『増訂版 金沢湯涌夢二館収蔵品総合図録 竹久夢二』（執筆・監修、金沢湯涌夢二館）

檜垣 立哉 専修大学教授、大阪大学名誉教授

⑨ 2024年3月2日【土】午後1時30分

賭博の哲学

⑩ 2024年3月3日【日】午前10時

食べることの哲学

■講座内容紹介

【賭博の哲学】

賭ける、というのは生きるということとほぼ同義である。さまざまな可能性のなかである可能性に賭けてみる。遊びから人生とそのままのままで、「見知らぬもの」へ「跳ぶ」という契機が「生」につきまとわれないことはない。ここでは九鬼周造の『偶然性の問題』とそれに連関する西田の「生命」という問題系をともに視野にいれつつ、「賭ける」という事態について論じてみたい。

【食べることの哲学】

食べることは、いずれにせよ「生命」を犠牲にして成り立つ行為である。もちろんヴェジタリアンや仏教など殺生を禁じる、自らしないということはある。しかし植物は生命ではないのか、あるものは食べてよく、あるものはダメであるというのはどうして決まるのか。何れにせよ何かを食べなければ生きていけないことはやむを得ぬことではないか。宮澤賢治の食物連鎖と罪への視線を通して、ただの生命倫理でない生の論理を追ってみる。

■専門分野 生命論、応用倫理学、生命倫理学

■主な著書・論文

『西田幾多郎の生命哲学』（講談社）

『哲学者、競馬場へ行く 賭博哲学の挑戦』（青土社）

『食べることの哲学』（世界思想社）